

令和5年度 学校経営計画

2023, 4, 19
大田区立大森第八中学校長
保谷 満

1 おおた教育ビジョン～豊かな人間性をはぐくみ、未来を創る力を育てる～

- プラン1 未来社会を創造的に生きる子どもの育成【未来】
- プラン2 学力の向上【知】
- プラン3 豊かな心の育成【徳】
- プラン4 体力の向上と健康の増進【体】
- プラン5 魅力ある教育環境づくり【学校・教職員】
- プラン6 学校・家庭・地域が一体となつてともに進める教育【学校・家庭・地域】

2 学校教育目標

- (1) 心身ともに健康な生徒
- (2) 自ら学び、向上する生徒
- (3) 心豊かで、思いやりのある生徒

3 目指す学校像

- (1) すべての生徒にとって安心・安全で居心地のよい学校、居場所がある学校
- (2) 生徒が主体的に活動する学校
- (3) 文武両道の学校

4 具体的な目標と方策

- (1) 知・徳・体の調和のとれた生徒の育成

① 確かな学力（知）

ア 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を実践する。（話し合い活動を通して自分の考えを広げたりすることができた生徒が70%以上）授業者によるアンケート調査など、生徒の授業理解度を確認ながら授業を進める。

イ 確かな学力の定着と個々における学びの伸長化を図るため評価内容・評価規準を明確化し、評価と指導の一体化を進める。定期考査に頼らず日々の学習活動を通して生徒を評価し、授業改善プランを修正しながら授業力向上を図る。特別な講師を依頼した授業研究や年2回のOJT週間で、互いの授業を見合い、指導力や評価について研鑽に努める。

ウ 授業において積極的にICTを活用し、学ぶ意欲と学力の向上を図る。生徒一人一台のタブレット端末を有効に活用し、情報活用能力の向上、家庭学習・オンライン授業等を充実させる。

エ 朝読書を実施し、落ち着いた環境で授業を開始させる。読書学習司書を活用し、学校図書館を充実させることで読書率を向上させ、生徒の人格向上と読書率向上に役立てる。

オ 実用英語技能検定試験を推奨し、卒業までに資格取得者55%（3級以上40%以上）の取得を目標に、英語による読み書き、リスニング、会話といったコミュニケーション能力の向上を図る。検定試験合格に向けた取り組みを放課後の補習教室等でもバックアップする。

② 豊かな心（徳）

ア 道徳の時間の他、教科、総合的な学習の時間、学級活動、学校行事等の全教育活動を通じて道徳指導と関連付け、「思いやり、感謝」に重点を置き、全教員で指導にあたる。

イ ボランティア活動に積極的に参加させ、人や地域に必要なにされているという自己有用感を味わわせる。地域活動以外でもどのような社会貢献、奉仕ができるかを考えさせ実践させる。

ウ 日直の教員など全教職員輪番で朝のあいさつ運動を実施し、あいさつできる生徒を育てるとともに全教職員が全生徒とのコミュニケーションを深める。（あいさつがしっかり行えている生徒が80%以上）

③ たくましい体（体）

ア 栄養士を中心に全教職員で給食指導を行い、食育等について家庭と連携を図りながら、健康づくりを進める。

イ サーキットトレーニング等を体育の授業で実施し、運動部以外の生徒にも運動する習慣を身に付けさせる。（それら以外の学級学年の活動や昼休み等の活動を通して体力の向上を図り、体力が向上したという生徒が70%以上）

④SDGs・STEAM教育への意識

持続可能な社会の実現を目指して、授業、学級活動・総合的な学習の時間や生徒会・委員会活動等を通して、次世代に向けた取り組みを行うことで豊かな心を醸成させる。

(2) 活気と感動にあふれた学校

① 生徒主体の学校行事・諸活動

学校行事に対して生徒に主体に取り組みせ、感動と成就感をあたえる。連合行事や各種コンクール、公募などに参加した生徒を全校朝礼等で紹介したり学校だより等に掲載し、意欲的に様々な活動に取り組みさせる。各種検定や資格取得、表彰経験を通して自己のキャリアパスポートの充実につなげる。

② 部活動の充実

ア 部活動指導員や外部指導員を活用し、指導内容のレベルアップを図ることで意欲的にさせる。区の人材ボランティアや東京都のサポーターバンク等を積極的に活用する。

(3) 安全、安心で、「居心地の良い、居場所のある」学校

① 「居心地の良い」学級・学年・学校づくり

ア 生徒の人間関係を良好にするために、学級集団調査とWEB-QUを活用し、不登校やいじめに対する早期発見、早期対応、学級づくりに役立てる。

イ 毎日の生活記録ノート(デイリーライフ)を活用し、生徒一人一人と日記のやりとりをすることで生徒の理解を深めつつ、教員間の情報交換を大切にする。

ウ 教職員が生活指導基本方針を確認し合い、厳しくもあたたかい指導につとめ、学校の組織をあげて生徒の規範意識の向上と健全育成に努める。生徒が委縮するような言動や生徒の人権配慮に欠ける言動は行わない。

エ 問題行動に対しては、教員間の情報共有と共通理解の下、即日対応を行う。その際、一方的な情報や思い込みから指導せず、生徒理解に努め、生徒の心に響く指導を心がける。

オ 不登校・不適應生徒に対しては、校内支援委員会が中心となり、SCや関係諸機関と連携を図りながら迅速・適切な対応を行うとともに、居場所の確保に努める。つばさ適応教室との連携についても全教職員で携わる。

カ 特別な支援が必要な生徒に対して、校内委員会を中心に、個々に応じた手だてを考え組織的に対応する。また、サポートルームや特別支援学級の運営についても情報交換を行い、共通理解を確実にする。

② 教育環境の充実・整備

掲示物等を工夫し、清潔感のある教室づくりを行い、生徒にとって安全で居心地の良い教室環境をつくる。委員会活動の取り組みを通して、環境美化の徹底を図る。

③ 安心・安全な学校

安全教育・防災教育に対し、常に危機意識をもって事故発生時に迅速・適切な対応をとる。

④ 働いていて気持ちの良い職場、教職員集団の形成

ア 親睦活動を含め、日頃から教職員の親睦を深めチームワークを育む。

イ 時間厳守、身の整理整頓等、仕事の効率化を意識するとともに、一定機関の休暇取得(年10日間以上)、定時退勤日(月1回)を設けて働き方改革を実践、ライフワークバランスを整える。

(4) 生徒が誇りをもち、保護者・地域に信頼される学校

① 生徒の賞揚(ほめる教育)

ア 生徒の良さや頑張りをほめる教育やボランティア活動等を通して、自信や自尊感情をはぐくむ。対外的な成果はすべて朝礼等で表彰する。生徒を集められない時はオンライン朝礼を行う。

イ 上級生が活躍できる場面、評価される場面を多く設定する。(自分にも良いところがあると回答した生徒が75%以上)

ウ 直接的に生徒を誉めるだけでなく、あらゆる角度、立場から生徒を誉めることで、生徒と教職員との関係性を向上させる。

② 学校からの発信・広報、保護者・地域との連携、小中連携

ア 学校・学年だより、掲示物、ホームページ等で学校からの情報を積極的に発信し、保護者・地域等にとって開かれた学校となるよう努める。

イ 保護者・PTAと良好な関係を継続させる。地域行事にも協力的な姿勢で参加する。

ウ 小学校との情報交換を密にし、小中一貫教育を効果的に進め生徒の成長につなげる。